地域づくり表彰

しずくいし軽トラック市実行委員会（岩手県雫石町）

# 身近な資源を活かして まちなかを活性化

しずくいし軽トラック市
実行委員会委員長
相澤（あいざわ）　潤一（じゅんいち）

## １．雫石町の概要

雫石町は、岩手県の県都である盛岡市の西方 16 kmにある人口 18,000 人弱のまちです。

面積は 609 km²、東京都 23 区より少し広く、約 7 割が山林となっており、岩手山や駒ケ岳などを中心とした雄大で秀麗な山岳美に恵まれ、登山客から好評を得ています。

町内には、北上川の源流となる雫石川や岩手山から流れる葛根田川などの多くの河川があり、水資源が豊富で、近隣市町村の水がめである御所湖に流れています。

雫石町の風景

産業としては、町内には日本最大の民間総合農場「小岩井農場」があり、NHK の朝の連続ドラマ「どんど晴れ」のタイトルバックでも有名な「小岩井の一本桜」もあり、毎年多くの観光客が訪れています。

また、町内には鶯宿温泉をはじめとする温泉が各地にあり、年中様々な泉質を楽しむことができる他、宿泊施設等も充実しております。

冬季は、世界アルペンの会場となった雫石スキー場を始め 3 つの民間スキー場の他、町営のクロスカントリースキー場もあり、ウィンタースポーツを満喫することができます。

こうした観光資源を持っていますが、町の基幹産業はやはり農業で、稲作をはじめ、野菜や花卉、畜産など多くの作物を生産しています。

その他、町では「ユニバーサルデザイン」を進めており、心のユニバーサルデザインとして、町を訪れるすべての方へ「おもてなしの心」を持って接することを進めています。

## ２．活動開始の背景・経緯

雫石町の商業環境も、車社会と規制緩和の進展の中で、当初国道 46 号線が中心商店街を通っていましたが、昭和 57 年にバイパスが完成したことにより、中心商店街の通行量が大幅に減り、また、郊外型の大型ショッピングセンターの立地も相次いだことで中心商店街への買い物客が大きく減少してきました。

中心商店街においては、経営者の高齢化や担い手不足、店舗の老朽化などにより空店舗も増えるなど、活気が失われてきました。

更に近年は、バイパスに中型量販店が開業するなど、中心商店街との競合環境は一層高まっています。

そういった中で、中心市街地の衰退に危機感を感じた町が、平成 15 年に中心市街地活性化基本計画を策定し、翌平成 16 年には雫石商工会が TMO 構想を策定しました。

その際に、中心商店街への集客策として検討されたのが「しずくいし軽トラック市」です。

雫石町は農業が基幹産業なので多くの農家がいます。殆どの農家は軽トラックを保有しているので、軽トラックの荷台に品物を積んだまま販売すれば、撤収も楽ではないか、という身近な発想から、軽トラックを店舗として対面形式で販売するという「軽トラック市」が生まれました。

## ３．しずくいし軽トラック市の特徴

こういった経緯の中で生まれた軽トラック市は、平成 17 年 7 月に第 1 回を開催しました。開始 1 年目は 7 月からスタートしましたが、現在では 5 月～11 月の毎月第一日曜日を基本に開催しています。

軽トラック市への出店はホームページ等でも募集をしていますが、現在は応募多数によりキャンセル待ちが出ている状態で、出店者にとっても魅力あるイベントになっているものと思われます。

しずくいし軽トラック市の主な特徴について以下で説明します。

**■多様な出店者**

しずくいし軽トラック市には、町内農家や商店等の出店はもちろんのこと、近隣の市町村や県内沿岸地域、そして県外からの出店もあります。

幅広い出店者が一堂に会することによって商品も増え、活気溢れる魅力的なイベントとなっています。

軽トラック市の出店風景

**■出店者も実行委員**

しずくいし軽トラック市の実行委員は、中心商店街の商店主を中心に、行政や農協、観光団体の他、出店者も加わっています。

運営側と出店側の双方にとって、よりよい軽トラック市の在り方などについて協議し、改善を図りながら推進しています。

**■県道の歩行者天国化**

しずくいし軽トラック市は、平成 15 年に策定した中心市街地活性化基本計画と併せて地域再生特区を取得したことで、県道の占有を可能とし、中心市街地を通る約 470mを歩行者天国にして開催されています。

軽トラック市の歩行者天国

道路の片側には、軽トラックが約

50 台並んで販売する他、市の開催中は通行止め箇所に交通警備員を配置するなど、来場者の安全を確保しています。

また、軽トラックが並んだ側の商店は、店の入口が塞がれ営業に影響するため、軽トラックの配置を毎回入れ替えることで商店間の公平性を保っています。

**■多様なイベント**

しずくいし軽トラック市では、芸能出演を始め、様々なイベントを開催して来場者を楽しませています。

そのイベントの多くは、ボランティア（無償出演）等に支えられながら実施されています。

**郷土芸能披露**

この芸能出演においては、日頃の練習の成果を披露する場を、軽トラック市が提供しているという、相互にプラス面を共有した上で継続されており、町立中学校の吹奏楽部による演奏会や県立高校の郷土芸能部による芸能披露、町内芸能グループによる演舞披露、ミュージシャンによる音楽ライブの他、県立大学の学生によるイベント企画など、見て聴いて楽しめるイベントとして開催されています。

その他、商工会青年部が中心となって子ども向けのイベント等も開催され、輪投げや的当て、流しそうめん大会など、来場した子どもから大人まで楽しめるよう、みんなが毎回思考を凝らして軽トラック市を盛り上げています。

**■町内企業との連携促進**

しずくいし軽トラック市では、平成 21 年度から「お楽しみ大抽選会」という企画を実施しています。

これは、軽トラック市を媒体として観光客を回遊させる取り組みを行うことで、結果的には中心商店街も活性化されるという目的で実施しているものです。

町内には宿泊施設が多数ありますが、宿泊客が減少しています。そういった観光施設から宿泊券や入浴券等の賞品を提供いただき、この軽トラック市を通じて観光施設へ人の流れを生み出すことで町の観光産業の活性化に寄与しています。

また、この抽選会企画では、出店者や商店街からも多数の賞品が提供され、提供者が直接当選者に賞品を渡すという工夫のもとに、来場者と出店者、商店街とのコミュニケーション機会を作り出しています。

**■いち押し店（商店街販促支援）企画の実施**

軽トラック市は中心商店街への集客が目的であり、直接的に中心商店街が潤うことにはなりません。

軽トラック市に訪れた来場者が中心商店街で買い物をすることで初めて中心商店街が活性化します。

軽トラック市を始めた当初は、開催日でもシャッターを閉めている商店が多く、軽トラック市だけが一人歩きしているような感じでした。

最近では、殆どの商店で開催日はシャッターを開け営業しますが、来場者を取り込む意欲と姿勢は未だに消極的な状況です。

そこで軽トラック市実行委員会では商店街の意欲を引き出すため、軽トラックが並ぶ列の中に商店街専用の販売スペースを設け、希望商店を募って販促支援を行う「いち押し店」企画という取り組みを行っています。

**いち押し店の開催**

この企画を始めたことで積極的に対面販売をするなど、商店主の販売意欲向上につながっています。

## ４．しずくいし軽トラック市の展開

現在、日本全国で地域活性化の起爆剤として軽トラック市の手法が広がっていますが、「軽トラック市」と称して開催したのが、このしずくいし軽トラック市が最初ということで、平成 20 年に「元祖　軽トラ市」の商標登録をしています。

また、毎年のように全国からの視察等も増加しており、視察団には実施方法など情報を提供しています。

また、出前の軽トラック市も年数回実施しており、軽トラック市の PR と併せて出店者へは営業の場を提供する等、認知度の向上を図ると共に出店者との信頼関係を高めることにもつながっています。

過去には、平成 19 年度の新潟大地震の際は義援金と救援物資を届ける活動を行った他、今回の東日本大震災にあたっても、軽トラック市会場内で募金や寄せ書き等を行い、被災者への支援を行っております。

## ５．課題と展望

しずくいし軽トラック市は開始から 7 年が経過しましたが、まだまだ発展途上の取り組みであり、問題、課題は多くあります。

その中でも、やはり中心商店街の組織力をどのように高めていくかが大きな課題となっています。

現状は、雫石町は商店街の規模が小さく、担い手の高齢化等によって実質的な活動メンバーが少ないことに加え、火付け役をした商工会が未だに事務局として主導している状態にあります。

軽トラック市をより盛り上げていくには、中心商店街の内側からもっと熱を上げていく必要があります。

軽トラック市により中心商店街の意識が徐々に向上してきていることは間違いありませんが、さらに意識の醸成を図っていく必要があります。

今後については、軽トラック市をさらに盛り上げていくために中心商店街が一丸となって取り組んでいくための体制を強化していくことはもちろんのこと、マンネリ化による意識低下を防ぐために、また、軽トラック市 10 年目の節目に向けて、新たな目標を設定しました。

それは、全国各地の軽トラック市とネットワークを築き、相互交流による新たな活性化を図る契機として、「全国軽トラック市サミット」を雫石町で開催することです。

今年度は、その推進のための準備組織を立ち上げ、取り組んでいます。